

## 「ドコモ オープンハウス 2024」

神谷 直亮

NTT ドコモが主催した「ドコモ オープンハウス 2024」が、1月17日と18日に東京・有楽町の国際フォーラムで開催された。実態は、「ドコモに限らずNTTグループとして実現したい社会への将来像や提供価値を体験してもらい、パートナーと社会実装を目指していくこと」を目的としたイベントで、6分野31の展示とデモが行われた。

筆者にとって、ドコモと言えば第3世代の「Widestar 3」衛星システムの動向が気になっていたのが出向くことにした。さらに昨年末からアメリカの低軌道周回衛星「Starlink」の販売代理店になりサービスを開始したというので、実情を聞いてみようと思った。しかし、どのブースで聞いても「Widestar 3」サービスの最新情報が得られなかった。一方、予定されていた「Starlink」サービスのコーナーには、「能登半島地震の対応のため緊急出動中。デモ展示ができなくなり、大変ご迷惑をおかけします」という張り紙が出されていた。

今回の展示会場を一回りしてまず目にしたのは、「8K伝送プラットフォーム」と「水中ドローン」であった。

「8K伝送プラットフォーム」のコーナーで行われたのは、8Kの広角映像と多視点映像による遠隔ライブリアル体感のデモで

ある。このデモの特徴については、「映像の帯域に合わせた伝送レートの自動制御、AIによる映像の高品質化、推し映像の手元確認機能の3つ」と説明していた。地域イベントの幅広いPRやスポーツイベントの新しい楽しみ方を提案しているという点で興味深いデモと言えた。

世界初という海中音響通信技術を活用する「遠隔無線制御型水中ドローン」は、NTT、NTTドコモ、NTTコミュニケーションズが開発した優れものである。説明員によれば、「海上にある音響通信装置が水中のドローンに対して制御信号を送信し、水中のドローンはこの制御信号に従い移動したり、撮影したり、撮影した映像データを海上に送信することができる」という。つまり、従来の有線制御型より海中での航行の自由度が高まるのがメリットで、海中設備点検などに向いているとPRに余念がなかった。具体的な実証実績を聞いてみたら「浅海域（水深30m）で伝送速度1Mbps/300mを達成した」と答えていた。

上述した2件以外にNTTドコモが出展した主な案件を挙げると、「草刈りロボット」「メタミー (MetaMe)」「おきなわ Compass」「AI接客」「AI道路寿命予測」「電気自動車を活用する基地局電源救済システム」ということになる。非常に多角的な出展が行われており来場者の関心が高まっていた。

筑水キャニコム社との共同開発という「草刈りロボット」は、遠隔操作・自動運転ができる草刈り機で、公園、河川敷、ゴルフ場、キャンプ場などでの利用に最適と売り込んでいた。メリットについては、「人件費の大幅な削減、事故やケガなどのリスク軽減、労働生産性の向上」などを挙げ、草刈り機の機能に関しては、「障害物などの検出と回避」「傾斜角40度までの自動運転の実現」の2点を指摘していた。

「MetaMe」は、ドコモのR&D部隊が開発した独自の技術を活用して、それぞれの人がつながりを保つことができるメタコミュニケーションサービスである。つまり多人数空間で行われる大規模イベントでのコミュニケーションの活性化を実現し、熱量の高いイベントにすることができるサービスと言える。今回このコーナーでは、混雑状態の百貨店で目的の店を探し出すのに役立つ「MetaMe」の実例が紹介されていた。また、パンフレットでは、昨年3月にサウナをテーマに「メタサウナフェス」を開催し、「このピッチイベントで最大1万人収容可能な空間を展開した」と大々的なPRに努めていた。

「あなたの沖縄旅をまるっとサポート」を謳った「AIレコメンドによるおきなわCOMPASS」は、モバイル観光ナビアプリである。「旅マエ」と「旅ナカ」の2つの利用イメージで構成されており、「旅ナカ」では、ルートに沿ったスポットのレコメンド、周辺のスポットのレコメンド、店舗や施設の情報のGETなどに対応している。

「コミュニケーションAIが実現するAI接客」のコーナーでは、「ドコモのAIアセットを組み合わせることで、相手の感情、状況、属性など言語外の情報もくみ取った対応を実現した」とPRに余念がなかった。この満足度を高める対応の基盤になっているのは「感情を推定する音声のDX基盤」「ニーズを理解するCX分析技術 (DoCoMo



写真1 「8K伝送プラットフォーム」のコーナーでは、広角映像と多視点映像による遠隔ライブの体感デモが行われた。

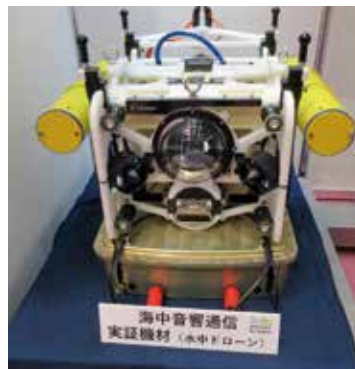


写真2 世界初という海中音響通信技術を活用する「遠隔無線制御型水中ドローン」が展示され、来場者の注目の的になっていた。

Sense)「対応を生成するLLM(大規模言語モデル)付加価値基盤」の3つとのことであった。

「AIによる道路の健康寿命予測」のコーナーでは、「点検データがなくても材料や施工業者などの舗装データを用いることで道路の劣化を予測するAIを開発した」と説明していた。メリットは、「幅広い地域で簡単に実現でき、限られた予算の中で道路の運営や維持管理ができる点にある」という。

「電気自動車を活用する基地局電源救済システム」は、停電を伴う災害対策強化策として1月12日から実証実験を始めたばかりと言う。ドコモが開発した基地局電力の監視制御を担うエネルギーマネジメントシステム基盤、NTTが開発した深層強化学習による巡回ルート生成技術で作成するAI配車計画、日本カーソリューションズがリアルタイムに収集するEVの位置情報・走行データなどで構成されるシステムである。今後、社用車として普及が見込まれるEVの蓄電量を停電時に有効に活用しようという興味深い試みと言える。

NTTコムウェアは、Innovative Optical and Wireless (IOWN)のユースケースとして、会場の希望者と遠隔地の対戦相手との間でXR卓球システムのデモを実施した。使用されていたのは、「Meta Quest Pro」ヘッドセットで、会場と遠隔地間はIOWNのAPN(All Photonics Network)で結ばれていた。説明員によれば、「従来のネットワークでは、光と電気の変換を繰り返して通信していたが、すべてフォトニック(光)ベースでエンド・ツー・エンドを疎通することで、光電変換にかかる遅延を低減させ、大容量、低遅延、高品質の通信を実現できる」と強調していた。

NTT QONOQは、PC・スマホ・VR端末対応のメタバース「DOOR」、ドコモとRelicとで共同開発した「メタバースQVC」、東京医科歯科大学と取り組んでいる「Project the Hands」、NTTデータMSE・ホロラボ・ユークス・ドコモテクノロジーが共創パートナーを組んで開発中の



写真3 筑水キャニコム社と共同開発したという「草刈りロボット」は、遠隔操作・自動運転ができるとPRしていた。



写真4 NTTコムウェアは、会場の希望者と遠隔地の対戦相手との間でXR卓球システムのデモを実施して人気を得ていた。

「ARグラス向け多重コンテンツシステム」など多彩な展示を行った。

「開け、次の世界」を謳う「DOOR」は、ブラウザ、スマホ対応のメタバースである。仮想空間でのイベント開催やコンテンツの展示などに活用が可能で、ユーザーはPC、スマホ、Oculus Quest VR端末などからバーチャル空間へ簡単にアクセスし、様々なコンテンツを楽しめるプラットフォームになっている。

「メタバースQVC」は、テレビショッピング通販サイトを運営するQVC社のために立ち上げた「お買い物PLAZA」で、空間内のお店やブースで商品の購入はもちろん、イベントへの参加、おしゃべり体験などが楽しめる。

「Project the Hands」は、CONOQと東京医科歯科大学が取り組んでいるMR技術を駆使する医療向けサービスの実用化を目指すプロジェクトである。つまり熟練医師の手技をMRによって可視化して伝承するという新しいツールの開発を行っているという。現時点で使用しているARデバイスは、「HoloLens2」とのことである。

「ARグラス向け多重コンテンツ起動システム」は、そのタイトルの通り「ARグラス上で複数のコンテンツを同時に起動し、そのグラスの

性能に応じた交通整理を行って処理するシステム」とのことであった。既存のシングルタスク向けのものからマルチタスク向けにレイヤーアプリケーションを駆使して進化させようというのが狙いである。デモは、「Lenovo A3」ヘッドセットで行われていた。

なお、ドコモの「Widstar 3」サービスについては、今回の会場では展示されなかったため、その後同社のホームページでチェックしてみた。これによれば、「データ通信を高速化するだけでなく、これまでできなかった通話・通信の同時利用やスマートフォン連携、SMSやWiFi利用が可能になるなど、利便性が大幅に向上した」とのことであった。

Naoakira Kamiya  
衛星システム総研 代表  
日本衛星ビジネス協会 理事

**ハイビジョン伝送・災害・報道・海外派遣**



**<SATCUBEアンテナの特長>**

- 47cm x 30cm x 5.5cmビジネスバッグに入ります!
- SCPCモデル・Sat-Qモデル・各種あり
- 災害/報道/海外派遣映像音声伝送インターネット接続/ハイビジョン伝送可能
- わずか1分で通信可能組立不要・工具不要
- 衛星捕捉は内蔵ディスプレイのアシスト機能で素早く簡単
- 航空機持込可能/バッテリーで運用可(約3時間運用可能)
- 運用中のバッテリー交換可(ホットスワップ対応)
- モバイル中継装置(TVU・Live U・スマテレ等)と連携可

**SATCUBE**

**「驚愕の超小型平面アンテナ!」**

スタンダードなSCPCでのSNGモデルに加え2020年7月に新しくスタートしたスカパーJSAT社の新サービス「Sat-Q」モデルもラインナップ。お客様の運用にマッチした利用が簡単にできます。放送などのHD映像伝送・災害通信・海外通信・企業のBCP向けなど幅広く利用可能です。

**Communications k.k. エーティコミュニケーションズ株式会社**

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14  
TEL: 03-5772-9125 <http://www.bizsat.jp>